

第六編 帝國海軍ニ於ケル水雷兵器ノ發達

第一章 魚形水雷

(記述要旨) 主トシテ用兵器側ノ要求ト兵器進歩ノ徑路ヲ對照敘述スルト共ニ兵器進歩發達ノ爲當局ノ採リタル措置努力ノ梗概ヲモ併記スルニカメタリ從ツテ各種兵器ノ機構々造ノ如キハ特ニ要スルモノノ外之ヲ省略ス、魚形水雷以外ニ就テモ亦同ジ

第一節 魚形水雷ノ起原及初期ニ於ケル發達狀況

第一項 水雷兵器ノ分類ト魚形水雷

皇紀二千二百四十五年(西曆一五八五年)和蘭獨立戰役中「アントワープ」ノ攻圍ニ際シ和蘭軍ハ多量ノ火藥ヲ積藏シ時計仕掛ニヨリ發火スル爆發船ヲ漂流セシメ敵ノ橋梁ヲ破壞シ或ハ敵艦ヲ損傷セシメタリト云フ是水中爆藥ヲ以テ敵ヲ攻撃セムトスル思想ノ濫觴ニシテ實ニ水雷兵器ノ起源トモ見ルベシ而シテ水雷兵器ハ爾後皇紀二千四百三十年代ニ於ケル北米合衆國獨立戰爭時代米人「ダビット、アツシネル」同二千四百六十二年代ニ於ケル米人「ロバート、フルトン」同二千五百二十年代ニ於ケル北米合衆國南北戰爭等其ノ他一戰役ヲ經ル毎ニ各種ノ發明考案ヲ促シ今日發達ノ導因ヲ爲セシモノニシテ之等ヲ大別セバ

一、可動水雷

二、非可動水雷又ハ敷設水雷(管制ノ能否ヲ問ハズ)

ノニ分類シ得ベシ而シテ其ノ可動水雷ニ屬スルモノニシテ古來幾多ノ考案アリシモ其ノ多クハ實用的兵器タルニ至ラズ其ノ實用ノ域ニ達セルモノハ外裝水雷、漂流水雷及曳進水雷等ニ、三種ニ過ギズ而方モ之等ニ、三種ノ兵器モ時代ノ進化ニ伴ヒ難ク次第ニ委聚セラレテ廢滅ニ歸シ今ヤ可動水雷ハ魚形水雷獨リ全盛ヲ極メ近キ將來ニ於テモ之ニ匹敵對抗スベキ兵器ノ出現ヲ見ルコト無カルベキ状態ニ在リ即チ現状ハ勿論近キ將來ニ亘リ魚形水雷ハ可動水雷即魚形水雷ノ地位ヲ具備スルモノト稱スルモ過言ニアラズ